

氏名(本籍) 岡田 貴子(奈良県)

学位の種類 修士(看護学)

学位記番号 修士第 67 号

学位授与年月日 平成18年3月24日

学位論文題目 長期入院統合失調症患者における生活者としての主体に関する研究

論 文 内 容 要 旨

※整理番号	69	(ふりがな) 氏 名	お か だ た か こ 岡 田 貴 子
修士論文題目	長期入院統合失調症患者における生活者としての主体に関する研究		
<p>1. 研究の目的 長期入院統合失調症患者における生活者としての主体の在り方について、幻覚・妄想とともにある患者の経験世界から明らかにする。</p> <p>2. 研究方法 5年以上継続して入院している5名の統合失調症患者を対象として、参加観察からデータ収集を行った。松原の生活構造理論を枠組とし、KJ法を用いてデータを分析し統合した質的帰納的研究である。</p> <p>3. 結果および考察 研究参加者はすべて女性で、平均年齢は56.4歳(SD7.57)、入院期間は6年目から34年目であった。KJ法により各研究参加者についてデータ分析・統合を行ったうえで、5名すべての研究参加者のデータを統合した結果、長期入院統合失調症患者における生活者としての主体の、9つの在り方が見出された。その9つの在り方を以下に括弧書きで示し、考察を加えて説明する。 本研究に参加した長期入院統合失調症患者は、「恋愛や結婚における挫折、出産が発病の引き金」になったと捉えており、女性として、妻・母としての役割を果たしたいという思いを現在まで断ち切れずにいる。あるいは、思いを断ち切れないが故に虚構の世界を築き上げて直視することを避けていると推察される。 彼らは本来、「自己も他者も尊重する」ことができ、良好な対人関係を築いている。しかし、「現実と病的世界の間を行き来する」という特有の在り方を持ち合わせているため、周囲への関心の低下や被害妄想から生じる他者への不信感が影響し「他者と良好な関係を築くことができない」姿をもみせる。 そして、自己を尊重し自分らしさを発揮したいという思いがあるが故に、病棟の規則あるいは経済上の制約により自由におしゃれや飲食を楽しむことができないこと、所持品を管理されるという「入院生活に不満を抱いている」。彼らは退院を希望しているが、「家族と疎遠で、援助が得られない」状況や、「病院外の様子が分からない」状況にあり、「退院したいが、現状は厳しい」と現実的な認識をしている。その結果、様々な折り合いをつけて、入院治療を続けるという「現状を受け入れる」道を選んでいることが示唆された。</p> <p>4. 総括 患者は幻覚や妄想を体験し、長期にわたる入院生活を送りながらも、生活者として自ら周囲の人、モノや環境に働きかける意志と、未来への意志決定を見失わずに持ち続けていることが明らかになった。それと同時に、その意志を十分に発揮することができない現状も明らかになった。 よって看護者は、患者の主観は病的体験に左右されており信頼するに当たらないという考えから脱却し、まず幻覚や妄想とともに在る患者の経験世界に目を向け、耳を傾けて、患者の主体的な意志を捉えることが重要である。そのうえで、患者が周囲に働きかける意志および未来への意志決定を、行為として具体化する能力に変えていけるよう支えると同時に、患者の主体的な意志の発揮を阻害している要因をできる限り取り除くことができるよう援助することが求められる。</p>			

(備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200字程度)
2. ※印の欄には記入しないこと。